

1. スポーツを取り巻く現状と課題

- 我が国では、少子化の進行、子どもの体力低下、運動習慣の二極化、部活動改革、AIの進化など、**子どもを取り巻くスポーツ環境が大きく変化**
- こうした状況の中、学校教育には、**子どもが生涯にわたり主体的にスポーツに親しむための基盤づくりと、学校と地域が連携した持続可能なスポーツ環境づくり**が求められていると認識

2. JSPOからの提言

以上を踏まえ、次期学習指導要領において、次の3点を重視いただきたい

提言1

生涯にわたって
スポーツに親しむ資質・
能力の育成

提言2

学校と地域が連携した
スポーツ環境の構築

提言3

スポーツを通じた
ウェルビーイングと
共生社会の実現

3. 方向性・視点

	＜提言1＞ 生涯にわたってスポーツに親しむ 資質・能力の育成	＜提言2＞ 学校と地域が連携した スポーツ環境の構築	＜提言3＞ スポーツを通じた ウェルビーイングと共生社会の実現
期待する 方向性	• 体育科・保健体育科を、生涯スポーツの基盤を育む教科として位置付ける • 運動技能や体力向上はもとより、子どもが主体的に身体活動に取り組む力を育成する • 豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成する	• 学校と地域の連携・接続をより明確に位置づける • 学校体育と地域スポーツを一体的に捉える • 部活動改革を踏まえた学校と地域との一体的な展開を促進する • 多様なスポーツ参加機会を確保する	スポーツは体力向上や健康増進はもとより、以下に資する教育的価値を有しており、それらの価値を一層重視する • 他者への理解 • 社会参画 • ウェルビーイングの向上 • 国際理解
具体的な 視点	✓ 運動遊びを基調とする内発的な動機付けの発揮(JSPO-ACP【アクティブ・チャイルド・プログラム】の活用) ✓ フィジカルリテラシーの育成 ✓ 身体活動への主体的な参画 ✓ 運動有能感・自己効力感の向上 ✓ 多様な運動・スポーツとの出会い(マルチスポーツ)	✓ スポーツ少年団・総合型地域スポーツクラブとの連携 ✓ JSPO公認スポーツ指導者の活用 ✓ 学校卒業後も継続できるスポーツ環境の整備 ✓ 安全面に配慮した活動環境の確保(暑熱順化等)	✓ 誰もが参加できるスポーツ活動 ✓ フェアプレー精神の定着 ✓ スポーツ・インテグリティに関する学び ✓ 「する」「みる」「ささえる」「集まる」「つながる」の多様な参画 ✓ スポーツボランティアを通じた社会参画

4. その他

<教育的意義を踏まえた持続可能な水泳授業の推進>

- 水泳実技授業の活動場所の確保・整備の推進
(学校プールに限らない、公営・民営プールの活用を含めた対応)
- 泳法の学習に限らない幅広い活動の可能性について検討
- 教師の負担軽減の観点から、民間事業者(スイミングクラブ等)の力を効果的に活用するとともに、産官学の連携・強化を図り、持続可能な水泳授業を推進すること
- 水遊びを通じて、水に親しむ態度の育成

5. JSPPOが貢献できること

- JSPPOは、加盟団体(競技団体・都道府県スポーツ協会等131団体)、公認スポーツ指導者(約30万人)、スポーツ少年団(約2万4,000団)、総合型地域スポーツクラブ(約1,100登録クラブ)等の全国的なネットワークなどの人的インフラを有している
- 今後も地域スポーツと学校教育をつなぐ役割を担いながら、すべての子どもたちが生涯にわたってスポーツに親しみ、心豊かな生活を送ることのできる社会の実現に貢献することができる